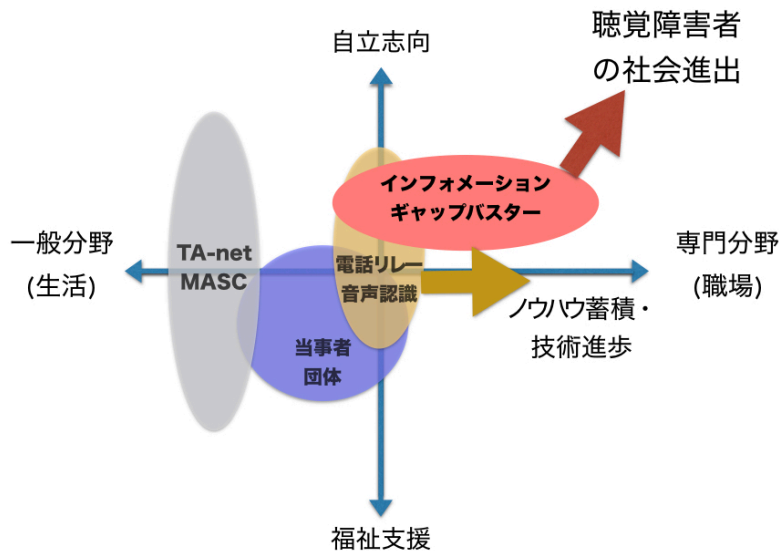


# 2018 年度 IGB事業計画 (案)

## 【2018 年度事業方針】

### ◆事業ポートフォリオ(再掲)\*1

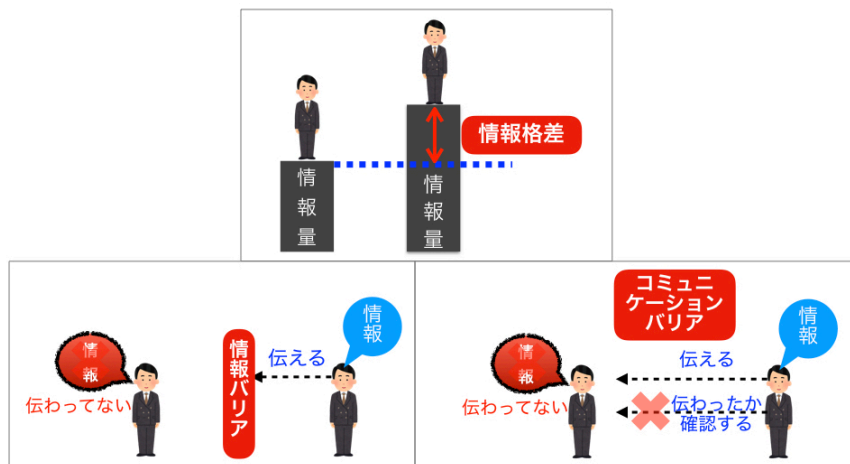
2017 年度に制定した事業ポートフォリオの通り、聴覚障害者の社会進出に合わせて必要となる最新・最先端の支援制度、テクノロジーの普及活動がメインの活動とする。主な事業対象は専門分野（職場）とし、また、自立志向型の方を主な支援対象とする。分野が隣接する団体とは、必要に応じて連携する。



\*1 事業ポートフォリオ：団体が実施している事業のターゲットの棲み分けをマッピングし、立ち位置を視覚的表現したもの

### ◆コミュニケーションバリアフリーについて

最近、大学や企業などにおいて、IGBの枕詞に使われている「情報バリアフリー」に類似する用語として「コミュニケーションバリアフリー」というキーワードが頻出するようになってきており、関連する用語（情報格差、コミュニケーションバリア）との違いを整理すると以下のようなになる。



まとめると、情報格差は結果、情報バリア・コミュニケーションバリアは原因であると捉えることができる。そのうち、コミュニケーションバリアについては、情報バリアに加えて、情報が伝わったかどうかを確認することが含まれている。相互理解のためには、情報バリアだけでなく、コミュニケーションバリアについても、必要と思われることから、2018年度は「コミュニケーションバリア」というキーワードを推し出していく。「コミュニケーション」とは、人間同士のコミュニケーションはもちろん、マスコミ、サービス企業、政府などの団体から市民・社会への情報発信なども含まれる。IGBとしては、特定のコミュニケーション手段にこだわることなく、マルチモーダルコミュニケーション（手話通訳、字幕など様々な手段を活用してコミュニケーションをはかること）を推していく。

当初は、「情報バリアフリー」のためには、相互理解のために「ダイバーシティ&インクルージョン」が必要であるとの認識から、「ダイバーシティ&インクルージョン」に取り組んでいた。最終的なゴールは、「ダイバーシティ&インクルージョン」ではあるが、その前に、「コミュニケーションバリアフリー」が必要であるとのことから、今年度は、こちらに注力する。

それに伴い、ビジョン、スローガン、活動理念、枕詞を以下のように修正する。

#### <<変更前>>

【ビジョン\*2】誰もが情報が得られる豊かな社会を創ろう

【スローガン\*3】「情報バリアフリー」な社会を実現する

【活動理念\*4】

啓発：「ダイバーシティ&インクルージョン」を普及し「互助」を推進します

教育：「当事者研究」を進め「自助」による解決能力を向上させます

要望：社会課題を「公助」により解決します

【枕詞\*5】情報バリアフリー推進団体

#### <<変更後>>

【ビジョン】**豊かなコミュニケーション社会を創ろう**

【スローガン】「**コミュニケーションバリアフリー**」な社会を実現する

【活動理念】

啓発：「**コミュニケーションバリア**」を解消し「互助」を推進します

教育：「当事者研究」を進め「自助」による解決能力を向上させます（変更なし）

要望：社会課題を「公助」により解決します（変更なし）

【枕詞】**コミュニケーションバリアフリー**推進団体

\*2 ビジョン：団体が将来目指すべきもの

\*3 スローガン：団体の理念や、活動の目的を、簡潔に言い表したもの

\*4 活動理念：活動を進めるに上でのコアとなる軸と目指すべき方向を明確化したもの

\*5 枕詞：何をする団体かを端的に説明する言葉

#### ◆ 活動テーマ

コミュニケーションバリアフリーを推進する分野としては、2017年度に引き続き、  
(a) 労働 (b) 生活 (c) 文化 とする。

#### ◆ SDGs\*6 への取り組み（新規）

IGBは、「一人ひとりが社会課題について深く知り、その原因について声をあげ、解決のためにできることを訴えていく」アドボカシー\*7活動を通して、政策を変え、不公正な社会を変えていくことを目標にしている。このため、事業自体を各種政策とタイアップすることで、政府や自治体及びそれに準ずる機関に影響をもたらす、公共政策の形成及び

変容を促していきたい。今年度は、その第一歩として、国連で定めており、日本政府としても国を挙げて推進している SDGs への関わりを明確にしていきたい。

\*6 SDGs は持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略。2015 年、ニューヨークの国連本部にて開かれた「国連持続可能な開発サミット」の成果文書として採択されたアジェンダにて掲げられた目標。この目標は、17 の目標と 169 のターゲットからなる。従来は企業において CSR の一環として取り組むことが多いが、最近では、国を挙げて SDGs を推進しており、NPO に対しても SDGs への取り組みを求められている。

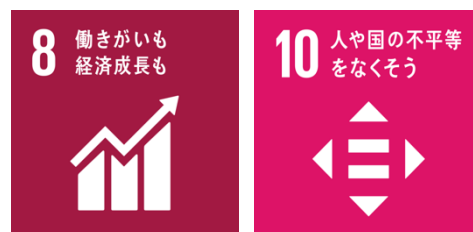
\*7 社会問題に対処するために政府や自治体及びそれに準ずる機関に影響をもたらす、公共政策の形成及び変容を促すことを目的とした活動である

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



IGB 事業が対象としているコミュニケーションバリアフリーと深くつながっている目標は、下記の 3 点。



IGB事業としては、ターゲットに対して下記のように取り組む。

職場や生活の場での「コミュニケーションバリアフリー」を推進することで、すべての人々のエンパワーメント、および社会的、経済的、および政治的な包含を促進し、「8 働きがいも経済成長も」「10 人や国の不平等をなくそう」に貢献していく。

#### ◆ チーム運営体制について

2017年度に引き続き、チーム運営体制を構築し、実行していく。  
但し、現状に合わせて、チーム体制を以下のように変更する。

- ◎ **事務局** (チーム体制より組織機構としての色合いが強いため、名称変更)
    - ・政府や関連団体へ要望を出して、社会問題の解決を図る。
    - ・この他、事務全般を受け持つ。具体的には、総会運営、横浜市、法務局などのNPO関係の手続き、会計事務、会費徴収、団体活動に必要な情報の共有、情報共有ツール運営、助成金獲得などを行う。
    - ・市民へコミュニケーションバリア問題をWebサイト、facebookなどを活用して情報発信していく。
  - ◎ **コミュニケーションバリアフリーチーム** (2016年度のD&Iチーム)
    - ・自己スキルアップの企画を行う。
    - ・市民へコミュニケーションバリアの問題を啓発していく。
    - ・コミュニケーションバリアフリーについて、関連団体とコラボし、社会に対して啓発していく。
  - ◎ 当事者研究チーム (変更なし)
    - ・当事者自身のことをよりよく知り、言語化することで、支援を求めやすくするために、当事者研究の企画を検討していく。
  - ◎ 電話リレーサービス普及プロジェクト (変更なし)  
電話リレーサービスの公的サービス化のためのシンポジウム準備、啓発パンフレット作成を行う。
  - ◎ 3Dプリンタ寄贈プロジェクト (変更なし)  
視覚障害学生の触学習の支援のために3Dプリンタを学校に寄贈、運用支援を行う。
  - ◎ 医療手話通訳推進プロジェクト **(新設)**  
⇒医療手話通訳の普及および病院内手話通訳者設置のためのシンポジウム開催や陳情を行う。
- 【ルール】**
- ・ **定例会は、企画ごとにスタッフを募集し、企画・運営を行っていく。(変更)**
  - ・ 会員の方は任意でそれぞれのチームに属してもらい、活動していただく。
  - ・ 必要に応じて兼務可とする。

#### ◆事業体制について

- 理事長：NPOの運営統括、**コミュニケーションバリアフリーエバンジェリスト (新規)**  
+副理事長：理事長不在時の代行  
+理事：会員の代表としてNPOの運営執行を行う。  
+事務局  
+電話リレーサービス普及プロジェクト  
+3Dプリンタ寄贈プロジェクト  
+**医療手話通訳推進プロジェクト**  
+**コミュニケーションバリアフリーチーム**  
+当事者研究チーム  
+監事：NPOの運営・会計の適正監査

## ◆企画について

### 【1年間の予定】

- 4/14(土) : 茶話会? [予定]
- 5/23(水) : 電話リレーサービス普及イベント [予定]
- 6/1(金), 2(土) : DPI全国大会 [決定]
- 6/16(土) : 総会 [決定]
- 7月 : なし
- 8/18(土) : 当事者研究シンポジウム [予定]
- 9/17(月・祝) : 医療通訳シンポジウム [決定]
- 10月 : なし
- 11/17(土) : 親睦会
- 12月 : なし
- 1/19(土) : キャリアアップ情報交換会
- 2月 : なし
- 3/16(土) : 茶話会

### 【ルール】

- ・ 開催日は、第3土曜日を固定する。日曜日の開催も数回行うようにする。講師の都合が合わない場合はこの限りではない。
- ・ 基本的に、東京都社会福祉会館開催とし、必要に応じて別の場所で開催する。
- ・ 3か月に1度は会員の交流・意見交換・自己研鑽を目的とするイベントを企画する。
- ・ テーマはそれぞれがルーチンとなるようにバランス良く実施するのが望ましい。
- ・ この他、電話リレーサービス普及シンポジウムを大阪（12月?）、名古屋（2月?）を実施する予定。
- ・ 視覚特別支援学校への3Dプリンタ寄贈事業(継続：クラウドファンディング)